

35 院内ホームページへの血液浄化療法センターホームページの開設

長野医療生活協同組合長野中央病院 血液浄化療法センター ○小林美由紀

金澤孝一 山岸大祐 宮下健 山本秀子

血液浄化療法センター一同

【はじめに】

長野医療生協長野中央病院では、目標による管理 (MBO)、電子カルテ、オーダリング、ISO9001 : 2000、病院機能評価受審によって組織管理を行っている。血液浄化療法センター(以下センター)では、1992年透析業務支援システムの使用を開始、2003年オーダリングシステム導入、2004年電子カルテを導入した。

2005年職場のマネージメントツールの1つとして院内ホームページ(以下ホームページ)を作成した。「職場内のコミュニケーション及び院内他部署とセンターとの情報共有の場として活用する」をコンセプトに作成され、合理的な職場運営のため日常的に活用されている。

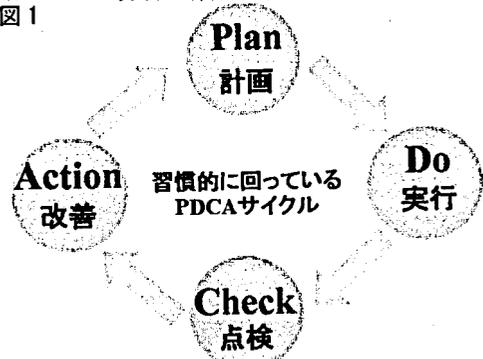
【職場マネージメント】

当センターでは、業務のスリム化を図りながら、安全で質の高い透析を提供する為、様々な業務設計をおこなってきた。櫻堂は「組織とは変革し続けるもの」である。一連の医療制度改革を例にあげるとともに透析が開始された昭和45年当時三桁にも至らなかった透析患者は約24万人に達している。中条は「業務のシステムを変えるだけで、最小の人員で最大の効果を上げられるシステムをつくることができる。」といわれるように、当センターで行なってきた材料費の見直しや、職員を増員せずに、しかも安全に透析件数を増加させる為の業務の効率化がどこの施設でも必要になっている。そのためには日々の透析業務を含めた、有効な職場マネージメントが必要である。2004年の電子カルテ導入により、職場全体が電子化されるという環境が整った。その環境を利用し、院内ホームページを利用した職場運営の効率化を図った。

小林美由紀 長野医療生活協同組合 血液浄化療法センター
〒380-0814 長野市西鶴賀町1570 026-234-3211(内1560)

当センターでは、4つのM(マン、メディア、マシン、マネージメント)により、職場を分析し、業務設計してきた。4つのMとは、医療事故の原因と構造を分析するツールのひとつである4E-4Mの「4M」である。色々なアクシデントやインシデントを4E-4Mで分析しその都度安全な透析を患者様に提供できる環境を作る努力を行なって来た。このことはISO9001の課題でもあるPDCAサイクル(図1)の実践ともリンクされている。このことから、職場を分析する際のツールとしても使用することが習慣化された。そこで今回ホームページ作成を4Mで分析し作成することになった。

図1



用語の定義 安全管理上用いられる4つのM

マン：人と人との連携をいい、お互いの人間関係が重要であって、こころが通じ合えないと指揮命令、指示連絡が通じにくく助け合いもできない。

(スタッフ同士や他部門との連携)

メディア：マンとマシンの媒体で、作業の方法や手順、作業情報のあり方、環境の整備、整理整頓の問題を含んでいる。(媒体、情報、環境の整備)

マシン：装置や機器などの物的条件で、マンマシンインターフェイスでの人間工学が深い関係もっている。(装置、機器の活用)

マネージメント：各種法則類の整備、指揮、監督や指示の仕方、教育訓練などの問題が含まれる。

(管理運営機能の整備)

【ページの構成】

ホームページの構成は他部門向けとセンター向けの異なる性質を持ったページの2部構成にした。他部門向けページ(図2)はトップページからリンクさせ、入り口1の職場使命などセンターから

他部門へ向けた情報提供のページにし、入り口2のセンター向けページ(図3)はスタッフの週間予定など日常業務で活用するためのマネジメントツールとして作成した。

図2



他部門向けTOP PAGE

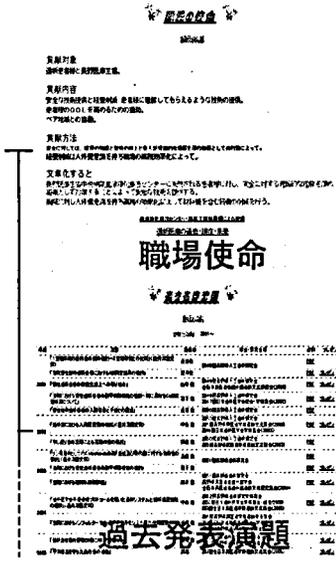
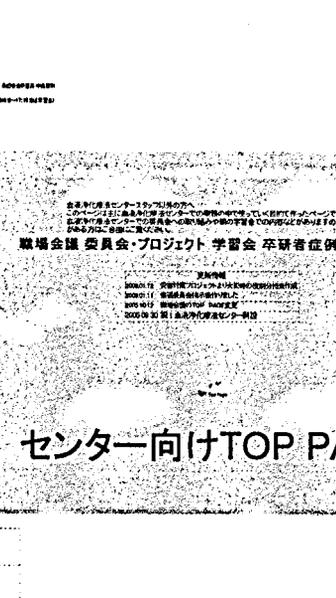


図3



センター向けTOP PAGE

【マンについての取り組み】

当センターでは、通常の職場にありがちな職責から主任、中堅、新人に向けたトップダウンだけでなく、自由に意見を出し合い検討し、それぞれの特性を生かし強調できる環境を整え、仕事の完成度を高めてきた。また、患者様の療養環境を整えるために必要な取り組みを、いくつかのグループに分け「委員会・プロジェクト」と位置づけている。中堅職員、新人と一緒に取り組むことで中堅は組織内における役割を發揮でき、新人は職場把握を通して教育を行なうことが目的である。取り組むこと自体が教育の一環として位置付けているのである。このホームページプロジェクトは中堅職員3名と新人職員2名が中心になった。中堅職員は職場の環境の変化を改めて確認することができ、今後の業務設計について考えることができた。櫻堂は、たとえ最初はリーダーが提示したビジョンであっても、スタッフからでてきたビジョンと重ね合わせ、共有のビジョンとするプロセスが必要であり、それがなにより大切である。と言っている。今回のホームページ作成も【職場マネージメント】で言った職場環境を利用し、職責からの提案で始まったものだが、ホームページプロジェクトの提案とが重なって共有できたと考える。

【メディアについての取り組み】

作成は、市販ソフト（IBM社製ホームページビルダーVer9）を使用する事で簡単に編集が出来る様に考慮した。ページのデザインはホームページプロジェクトが中心となりアウトラインを作成しページデザインを統一した。それぞれのページは、各委員会・プロジェクトに作成を依頼する事で、ホームページ運営にスタッフ全員が関わる環境にした。誰でも編集が出来ることにより、誰でもグループの方針や取組み状況の把握が可能で、自分たちのホームページとして運用しやすい環境を作り上げた。これは、技術と知識を職場全体の成果につなげる為にスタッフ全員が同様の意識を持ち、協働して仕事に当たる事ができたと考える。

【マシンについての取り組み】

当院では、インターネット接続可能な院内ネットワークと、電子カルテネットワークの2つの独立したネットワークが存在し、両者とも毎日データバックアップが行われている。院内ホームページは、院内に端末が約400台ある電子カルテネッ

トワークの活用を選択する事により、院内どこでも閲覧が可能となった。また当センターでは、透析医学会共通通信プロトコールによりコンソールと電子カルテを1対1で接続しているため各ベッドサイドに端末があり（図4）、ホームページを容易に開けるようにデスクトップにショートカットを作りホームページに掲載された情報はセンター内のどこでも閲覧可能となった。ナースステーションに戻らなくても情報を得られるということは業務の効率化につながっている。

図4



【マネージメントについての取り組み】

ホームページ全体がマネージメントの取り組みである。センター向けページには職場会議議事録のページがあり職場会議は、電子カルテ端末数台を囲み行われている。会議には討議事項を記載した紙は一切無く、会議が進むにつれ議事録が更新されるためホームページが最新の情報となっている。また過去の議事録を容易に参照できる。週間予定のページはこのページを見る事で、職場全体の人員配置を把握でき自分の役割を知る事が出来る。このページにより、コミュニケーションツールとしてだけでなく、メンバーがホームページを閲覧する事で、自分の業務を把握・設計でき、見るだけでスタッフが動けるマネージメントツールとして日常活用することが可能となった。基本コンセプトをしっかり立てそれに沿って作成し何度か作り直していく中で時々コンセプトに戻り、作成したことで業務の中で生きるページを作ることが出来た。

他部門向けページには職場使命のページがあり、職場目標書が表示されている。職場の組織目標は、

法人の理念、方針から職場方針にブレイクダウンし、各プロジェクトなどで目標を設定している。設定した目標の進捗状況は、各グループが作成したページに随時記載する事で達成状況が共有化され、組織の方針に対する現状が把握できる。個人目標は、それぞれが所属するグループ目標を各自の目標とし、1年間の重点となる業務が明確となる。また年数回総括し目標を見直すことによりISO9001で規定される「P-D-C-A」サイクルによる医療サービスの継続的な品質改善が可能となった。ホームページは公開するのみでなく日常業務として活用し日々の事柄を日常的に記録することによって最新情報が記録、公開され、目標の背景の明確化と共有、職場情報の収集、保管、伝達に役立ち、職場全体の力量を知るためのツールとしても有効になっている。

【まとめ】

血液浄化療法センターホームページは、日常業務を行なう上で欠かす事のできないマネジメントツールとなり情報伝達面でムリ・ムダ・ムラを無くすことが出来た。ホームページの作成を通して、中堅職員は組織内における役割が発揮でき、新人教育につながった。

【おわりに】

ホームページは開設から1年以上経過し、現在でも日々更新され日常業務で活用されている。ホームページを「見て動く」が習慣となり、ムリ・ムダ・ムラを排除した合理的なマネジメントツールとなった。ホームページが開設したことで、職場の情報が合理的に管理でき、現状把握が容易となった。

【引用参考文献】

- 1) 中条善則：透析におけるIT化 日本血液浄化技術研究会会誌第14巻号2007年3月
- 2) 櫻堂歩他：透析と経営 2005.15、16 2006.18 2007.19
- 3) 鈴木洋通他：透析医療の現状と展望
- 4) 山際有文著：図解マネジメント 管理、遂行能力を身につけるには